

# 桐生自然観察の森・定点カメラモニタリング2014

桐生自然観察の森 田野芳久

## 1. 概略

2011年11月から始めた桐生自然観察の森でのセンサーカメラによる大型哺乳類の調査も今年で丸3年を経過しました。

出現頻度でもっとも優勢なのはニホンイノシシで、次いでニホンジカという順序になり、これについては例年通りの結果となりました。

2014年はホンドギツネがセンサーカメラによって初めて確認されました。

また、ニホンアナグマが繁殖している模様も撮影されています。

桐生自然観察の森は、山のふもとにある面積にして18.9haの施設ですが、その中で多くの哺乳類が暮らしていることに改めて驚かされます。

## 2. 園内生息種とセンサーカメラに撮影された種

桐生自然観察の森において生息が確認された種とセンサーカメラによって撮影できた種は以下の通りです。

2014年はセンサーカメラで新たにホンドギツネが確認できました。

目録記載種	撮影種
ニホンノウサギ	○
ニホンイノシシ	○
ニホンカモシカ	○
ニホンジカ	○
キクガシラコウモリ	?
テングコウモリ	?
ニホンザル	○
ニホンテン	○
ニホンイタチ	-
ニホンアナグマ	○
ホンドタヌキ	○
ホンドギツネ	○

目録記載種	撮影種
ツキノワグマ	-
ハクビシン	○
ヒメネズミ	-
アカネズミ	-
カヤネズミ	-
ムササビ	※
ニホンリス	-
カワネズミ	-
ジネズミ	-
アズマモグラ	-
ヒミズ	-

※ ?印はコウモリ類が確認されたものの、同定が困難なことを示す。

※ センサーカメラ設置高の関係から、食虫目・地上性のげっ歯目はセンサーで検知されないと考えられます。

ただし2014年は、アカネズミ・ヒメネズミの日中の目撃例が数例あり、キツネの(再)確認とあわせて考えると、個体数の増加の可能性も考えられます。

※ ムササビは当園内で保護された個体を放獣し、保護のため架設した巣箱で撮影されたものです。(現在、巣箱は撤去)

### 3. センサーカメラで捉えた動物たちの姿



ニホンカモシカ



ニホンイノシシ



ニホンジカ



ホンドテン



ニホンノウサギ



ホンドタヌキ

このように、人里に近いまさに「里山」の桐生自然観察の森にも、たくさんの哺乳類たちが棲んでいます。

ポスター展示ではスライドショーも行い、多くの動物たちの姿をお目にかけてたいと思います。